

# インターネットにおけるランドスケープの情報発信の経緯とその意義 -ホームページ「ランドスケープをしよう」運営 13 年から-

ランドスケーププロジェクト 代表 宮川央輝  
 造園まちづくり塾 主宰 北川義男

## 1. はじめに



写真-1 ランドスケープをしよう  
[www.landscape-project.net/](http://www.landscape-project.net/)

ランドスケープの啓発と情報発信を目的とするホームページ「ランドスケープをしよう」は、1999年11月に運営を開始し、今年で13年目を迎えることとなった。運営開始当時「ランドスケープ」の国内一般認知度は非常に低く、またランドスケープに関する進学や就職等に関する情報

入手先も限られている状況であった。こうした中、「ランドスケープをしよう」は、国内外のホームページ閲覧者との情報交流や、ランドスケープを志す人々への情報提供を図りながら、ランドスケープ啓発のためのコンテンツを整備し、ホームページの運営を行ってきた。

本論では、13年間のホームページ運営の経緯を通じて、インターネットによる啓発活動の意義と今後の課題について考察を行った。

## 2. ホームページの概要

### (1) 情報発信の主な経緯

ホームページ開設からの主な経緯を表-1に示す。

### (2) ホームページの目的

「ランドスケープをしよう」は、ランドスケープの専門家だけのものではなく、多くの人々にランドスケープというものにふれあってもらい、広くランドスケープを理解してもらうことを目的としている。その活動を「ランドスケープをしよう “Landscaping & Movement”」として定め、ホームページの名称とした。

### (3) コンテンツの概要

「ランドスケープをしよう」の情報コンテンツは、閲覧者からの要望や、情報提供によりコンテンツ内容の充実を図っている。現在のコンテンツ内容の概要を表-2に示す。

表-1 ホームページ情報発信の主な経緯

年 月	概 要
平成11 (1999) 年11月	ホームページ「ランドスケープをしよう」開設
平成12 (2000) 年12月	NP0「ランドスケーププロジェクト」発足
平成13 (2001) 年 6月	インターネット博覧会ホームページのパビリオン参加
平成13 (2001) 年11月	NHK「明日をつかめ」ランドスケープ・アーキテクト編番組取材協力
平成17 (2005) 年 2月	「ランドスケープをしよう」管理人ブログ開始
平成17 (2005) 年 6月	雑誌「ランドスケープデザイン」(マルモ出版)とのメディアミックス開始

表-2 コンテンツ一覧

「このホームページについて」	ホームページの目的や趣旨、経緯の説明
「ランドスケープってなに?」	ランドスケープを8つの視点で解説・紹介
「ランドスケープQ&A」	これまで寄せられた質問を抜粋して回答・公開
「ランドスケープ関連学校一覧」	ランドスケープに関連する学校を、地域別・種類別に紹介
「緑・環境資格リスト」	ランドスケープや環境関連の資格の概要を紹介
「海外ランドスケープレポート」	ランドスケープの海外留学や就職経験者から頂いた体験レポートを公開
「ランドスケープMEDIAMIX」	雑誌「ランドスケープデザイン」(マルモ出版)と同時掲載の対談記事の公開
「ランドスケープBOOKLIST」	ランドスケープに関連する書籍をネット書籍システムを利用して紹介
「ランドスケープ掲示板」	BBSを利用したランドスケープの情報掲示板
「ランドスケープリンク集」	ランドスケープに関する国内外のサイトを紹介

## 3. ホームページ活動の効果

### (1) ホームページへの反応

#### 1) 運営前期 (1999年11月～2006年5月)

ホームページ開設初期においては、コンテンツの内容も乏しく、ランドスケープの解説とリンク集程度であったが、国内外から多くの反響があった。特に海外に留学した学生からの eメールでは、「ホームページを見るまで日本でランドスケープが学べる学校があるということを知らず、アメリカ留学を決めた」等の内容もあり、ランドスケープの情報が

社会や学校教育機関にも広まっていない状況に対する危機感を強く感じた。また他にも、「造園，ランドスケープに関係する学会や協会等に連絡したが，返信がまったくなく，このホームページでやっと相談にのってもらえた」という声もあり，当時から学生，一般人からのランドスケープに関する窓口が非常に弱いことも伺わせた。

ホームページに寄せられた質問が増加する中で，類似した質問も多いことから，新たに「ランドスケープQ&A」のコンテンツを作成し，これまでホームページに寄せられた代表的な質問と回答を公開した。公開しているQ&Aの項目を表-3に示す。

こうした活動の中，2001年には，日本政府によるインターネット博覧会（インパク）へのパビリオン参加や，NHKのランドスケープ職業紹介番組の作成協力等，他のメディアとの連携や協力もみられるようになった。

## 2) 運営後期（2006年6月～現在）

現在のサーバーに移転し，コンテンツも現在と同程度に充実した2006年6月からを運営後期として区分する。問い合わせeメール件数も把握できるため，本期間でのホームページへの問い合わせを内容別に区分し図-1に整理した（集計はeメールのみでその他の手法による問い合わせ件数は除外）。

表-3 ランドスケープQ&Aの項目

Q1. どこでランドスケープが学べるの？
Q2. 受験（就職）にはなにが必要なの？
Q3. 海外と日本、学ぶにはどっちが得？
Q4. 造園・ランドスケープの資格ってあるの？
Q5. 造園学の学び方
Q6. 就職する時のアドバイス
Q7. どんな書籍を読めばいいの？
Q8. 海外留学について調べたい！

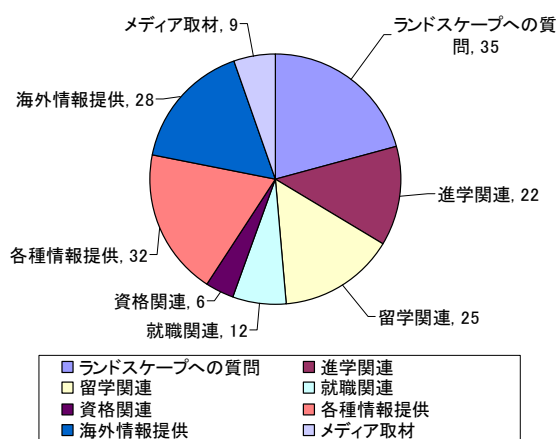


図-1 問い合わせ内容別メール件数 (n=169)

もっとも多いのが「ランドスケープへの質問」であるが，ランドスケープについての助言依頼や質問を含め，ランドスケープに興味をもった人のeメールであり，その内容は広範囲に亘る。

また，「進学」「留学」「就職」の問い合わせは全体の35%を占めており，昨今の厳しい就職事情も反映していると推察される。特に「学校側が卒業生のデータを把握していない」「回答できるネットワークを大学窓口や担当教授が持っていない」等の理由から相談を頂くことが多く，学生に対する社会的なサポートが依然不足している実情を伺わせている。

「各種情報提供」「海外情報提供」では，ホームページの理念に賛同し，国内外から情報提供や協力の申し出を頂いているものであり，有志によるネット上のサポート体制が広がっている。

## 4. 考察とまとめ

ホームページの運営を始めたきっかけの1つとして，私自身が，進学や就職時に情報不足で問い合わせる窓口もなく，非常に困った経験がある。また，社会人になってからも地方ではランドスケープの情報収集や技術水準を計る術が限られているため，情報発信の必要性を感じたためである。

しかし，こうしてホームページによるランドスケープの情報発信を続けている中で，優秀な人材がランドスケープの情報がないために，他の職種や国外へ流出している状況や，他分野からランドスケープに参入したいと願う人材が多いことを目の当たりにして，ホームページの趣旨と役割も大きく変化した。現在では，ホームページ掲載コンテンツの他にも，ホームページに情報提供して頂いた方々の協力を得ながら，閲覧者と留学生との交流をサポートする支援も行なっている。

現在，世界中で環境への意識が高まりつつある中，環境デザインでのランドスケープの役割も大きくなっている。それに伴い，熱意ある人材がランドスケープに注目しつつある。その一方で，少子高齢化により，今後ランドスケープ関連の業界や学校自体の衰退も不安視されている。

こうした状況に対し，必要な対策においては，「隗より始めよ」のごとく，ランドスケープに係わる学校や業界，学会，NPO等は，こうしたランドスケープの多様な情報を必要としている人材へのケアの充実を図り，人材の取り込みを一体となって進めていくことが望ましいと考える。

最後に，「ランドスケープをしよう」のサイト運営において，今後も皆様からの多くの協力と支援をお願いしたいと考えております。